

- （一） 楽しい給食を通して、食事作法が身につく、清潔な食事ができ、しかも能率的であるという望ましい習慣の基本的態度を養う。
- （二） 互いに協力し、楽しいふんい気で食事ができ、豊かな生活を築いていこうとする態度を身につけさせる。
- （三） 食事について正しい理解を深め合理的な食事が健康に役だつことを理解させる。

- （一） 楽しい給食にするためには、献立の内容が重要な位置を占める。食事がおいしく、変化があり、し好に合い、見かけがよいものでなければならぬ。時には、児童にアンコール献立を募集し、その献立による食事をさせることも大切である。
- （二） 楽しい給食にするためには、以上の基本的事項を踏まえて、次のような給食指導目標を設定した。

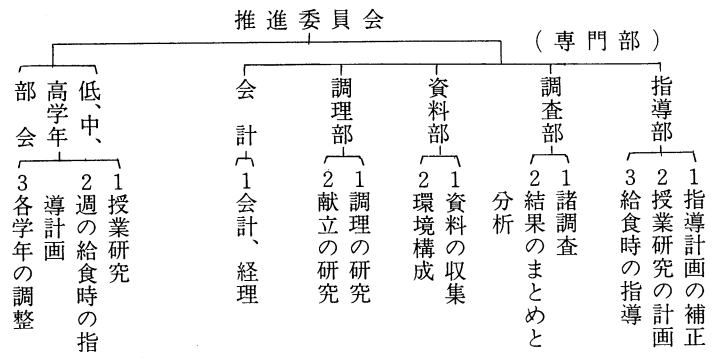
### 三、本校の学校給食指導目標

- （一） 楽しい給食にするための、責任、協力、感謝の心や態度を育てる。
- （二） 楽しい給食にするため、工夫、話し合い、計画、実行する態度を育てる。
- （三） 楽しい給食にするため、責任、協力、感謝の心や態度を育てる。

### 四、学年別重点目標



### 五、給食指導の組織



### 六、研究のまとめ

- （一） 学校給食についての意識が高まり指導観や指導体制が確立されたことにより、目標に迫ることができた。
- （二） 給食に親しみをもち、学校生活

以上のような指導組織を確立し、全職員の共通理解の下に、それぞれの分担を明らかにし、活発な活動ができるように配慮した。

### 七、今後の課題

- （一） 楽しい給食にするために、おいしい献立に変化があるということが大変なので、幅の広い献立が必要である。
- （二） より楽しい食事ができるようにするため、物的環境、会食の仕方などに、今後に残された問題点がある。
- （三） 正しく、楽しい食事の取り方、身につく、健康増進に役だたせるためにも、今後、更に家庭や地域社会との理解協力を深めていく必要がある。
- （四） 米飯を希望している児童や家庭が見られる現在、米飯給食は、今後に残された課題である。
- （五） 給食指導は、力を入れれば入れるほど、その内容の深みを感じる。給食指導をするのではなく、給食を通して児童の健康を増進し、人間性を育成していくことを再確認するとともに、給食活動を大切にしていかなくてはならない。